

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年1月12日

【評価実施概要】

事業所番号	0272100850		
法人名	有限会社都和		
事業所名	グループホーム白壽		
所在地 (電話番号)	〒038-3166 青森県つがる市木造福原印元61番地1 (電話) 0173-42-7032		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年11月10日	評価確定日	平成22年1月12日

【情報提供票より】(平成 21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	冬期3,600 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 87.7 歳	最低	81 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾野病院、菊地歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>田園地帯にあり、近隣の住居と馴染んだ建物になっている。リビングの大きな窓からは十分な採光がある。単独の事業所であるが、地域の他事業所との連携も図られている為、利用者の心身の変化に適宜対応出来ている。利用者の個別能力の把握が充分にされ、日々の活動性は高く、充実した時間が提供されている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>市町村との連携・運営推進会議への参加等は、積極的にアプローチする事で、少しずつではあるが改善されてきている。災害対策面での協力は近隣住民の高齢化もあり、依然困難な状況下にある。食事場面では、さりげない見守りに向けた努力がされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>入職間もない職員は、専門用語に戸惑いもあったが、職員全員で取り組む事で、内容の理解が図られている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>日常のケアの取り組み・行事内容・外部評価の結果報告がされ、それに関するアドバイスを受け、ケアの向上に活かして行く取り組みがされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>意見箱の設置がされているが、意見の投函は未だ無い。面会・運営推進会議において、口頭での働きかけ・毎月の「お便り」時にも意見等の抽出に努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の散歩時に、挨拶を交したり、食材のおすそ分けが日常的にされている。又、町内会へ加入し、地域の情報の共有が図られている。ボランティアの受け入れも積極的にされ、良好な関係が構築されている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はパンフレットにある基本事項を基に作成している。毎年その時の状況を考慮しながら、職員と共に考えて少しずつ変えている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティング・会議の時に、職員へ理念の意識付けをし、共有出来るよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいが出来るよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近所とは、挨拶はもちろん、お互いに食材のおすそ分けをしたり、町内会へ加入し回覧板を回すなど交流が図られている。また、地域の方がコーラスやお話し会のボランティアで訪問してくれるなど、良好な関係が構築されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員も参加し評価についての検討会を実施している。評価結果の報告もされ、改善項目に関しては、出来る事から少しずつ改善に向けて努力している。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>社会福祉協議会、民生委員等の参加で運営推進会議が行われ、情報交換や意見交換が行われている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>職員は市主催の研修に参加している。事業所からは利用者の状況や運営について報告し、市担当者とはいつでも相談出来る状況にある。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在利用されている方はいないが、資料で勉強会を実施している。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>いつでも読むことができるように、マニュアル本が準備されている。また、入浴時に身体に異常箇所等がないか確認をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には不安や疑問がないように、契約書・重要事項説明書等を基に、確認をしながら説明をして理解を得ている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時に利用者の状況を報告している。体調等の変化については随時連絡をしている。請求書は毎月お便りと一緒に送付している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置したり、家族の面会時には意見や苦情がないか働きかけている。今後も継続し、積極的に取り組んで行く予定である。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>人事異動はないが、離職の際には十分な引継ぎを行うことで利用者へのダメージを防ぐように配慮をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画の予定にはないが、年1回は職員を外部研修へ参加させたいと考えている。内部研修は職員会議の際に実施している。		復命書や資料等ファイリングをしていつでも見られるようにする事で、研修へ参加出来なかった職員への周知を期待したい。
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が主となり交流する機会がある。職員が他事業所と交流する機会は少ないが、管理者は交流で得た情報を随時職員へ伝達している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に向けて職員が自宅を訪問したり、利用者が事業所に馴染むまで自宅と行き来するなど、無理のない対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に歌を歌ったり、畑仕事をしたり、買い物や地域の行事である「馬市」の見学へ出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志表示が困難な方も、性格や特徴をとらえると共に、生活歴を把握する事で、必要に応じた対応をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々の関わりや、家族からの意見や要望を基に職員間で話し合い、介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごとに評価をして記録されている。その後担当で会議を実施し、確認・見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一人暮らしの方で、帰宅を希望された時は、家族の了解を得て、職員が付き添って自宅へ出かけている。病院受診への対応も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医に継続して受診できるように配慮している。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りの利用者があり、家族・医師と相談しながら、看取り計画を立てている。またケアの方法も職員間で共有している。本人・家族の意向に沿い、特別養護老人ホーム等の他事業所との連携も図られている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>契約時の書類等は鍵のかかる書庫に保管し、言葉掛けについても配慮がされている。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日のスケジュールは作成されているが、本人の希望を取り入れ、個々のペースで過ごすことができるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	りんごやじゃがいもの皮むきなど利用者と一緒に下準備をしている。献立は利用者の意向も取り入れられている。		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	週3回実施している。入浴出来ない利用者には清拭や足浴も実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	家事や畑作業など、個々の希望・能力に沿った支援をしている。		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	畑作り・散歩・買い物・日向ぼっこなど個別の希望に沿って支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>資料を基に、ミーティングの際に職員へ周知するよう、身体拘束の無い支援に取り組んでいる。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>非常口のみ鍵はしているが、玄関の鍵は掛けず、利用者の所在確認の徹底に努めている。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回消防署立合いで訓練を実施している。地域にも参加を呼びかけているが、現在はまだ協力を得られていない。</p>		<p>今後も継続して、地域への協力を働きかけることを期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分量は毎日記録されている。その量を確認しながら勧めており、必要量は確保されている。食事量が少なくなつた方には観察をして対策を講じている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルが作成されており予防に努めている。行政からの情報があったときは再チェックをして対応を強化している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりが良く、明るい共用空間になっている。ソファや椅子が配置され、利用者はそれぞれ好みの場所に座っている。リビングとキッチンがワンルームになっており、調理中の様子やにおいが伝わり、家庭的な雰囲気となっている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとタンスは備品としてあるが、自分の使い慣れたタンスを持ってこられている方もいる。ベットの高さをマットレスで調整するなど、利用者が使いやすいように工夫がされている。家族の写真を飾ったり、趣味の物があったり、自宅にいるような雰囲気の居室となっている。		

 は、重点項目。